

## 上下水道事業のPPPと公民連携のこれから①

# 「官民連携・みやぎ方式の現状と課題」

グローバルウォータ・ジャパン代表

吉村 和就



海外水ビジネス研究会は、日本の海外水ビジネスを活性化するための情報の共有化や展開方策の検討を行うことを当初の目的として、水道の専門家と国際金融・貿易・海外投資の専門家によって、どの組織からの制約もない私的な勉強会として2017年にスタートしました。活動は6年目に入っており、毎月開催する定例会などの成果をもとに、これまでに中間報告会、提言報告会、雑誌「水道公論」への連載執筆、出版、地方での講演会などを精力的に行ってきました。また、2022年の活動分野としては、技術系と金融系の双方の立場からの上下水道への着目をベースに、①海外における日本のインフラ投資の一環

としての水ビジネスの推進に加え、②地球規模の緊急課題としての気候変動等地球規模問題との関わり、③環境会計・その発展形でもある非財務情報、世間の関心の高まりがあるDX・GXなどを含めて将来の技術革新につなげるための情報収集という3つを柱としています。

このたびの名古屋講演会は、水道展が名古屋で開催された機会に、名古屋駅前の会場（ウイंकあい

コーディネートを務め、研究会メンバーで上下水道関係のコンサルタントの山口岳夫氏にも討議者に加わっていただきました。開催当日は、会場からZoomによるオンライン方式で全国にも発信しました。

今日の水道事業は、人口減少や節水の普及等により給水収益が減少する一方で、従事する職員の減少、管路や施設の更新需要の増大など、経営環境が厳しさを増しています。そうした中において持続可能な水道経営を確立することが一層重要になっており、広域化と共に公民連携の

### 講演記録の掲載にあたって

海外水ビジネス研究会共同代表 山村 尊房

ち)において2022年10月21日午後開催したもので、「上下水道事業のPPPと公民連携のこれから」というテーマで、本会に中心的に参加しているメンバーの中から、特にこの分野に造詣の深い吉村和就、鈴木康二および安間匡明の3氏に講師を依頼し、現状を幅広く概観するとともに、課題や留意事項について焦点を当てました。パネルディスカッションでは、当研究会共同代表の工藤克典氏が

推進、とくに民間の知識経験を活用した上下水道事業のPPPへの取組に注目が集まっています。また、国内のみならず財政の厳しいアジア諸国においても水道事業等へのPPP導入が関心を集めています。今回の講演会が、現状や課題についての理解を深め、議論を拡げるための一助となることを願ってやみません。本誌上では、それぞれの講師の講演内容の要点を紹介いたします。